

平成28年度 学校法人 三幸学園 大阪リゾート&スポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 渡邊 慧

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 西鶴 和博

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・募集目標の達成
- ・授業力の強化(新カリキュラムの運用、趣旨の理解、科目間連携)
- ・人材育成(定期的な研修の実施)

② 学校関係者評価委員会コメント

社会に貢献できる生徒を社会に送り出すために委員会の内容をしっかり実行に移してほしい。
また、学校が業界との連携を密に図り、情報を学生に伝えていく事が大切になる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・将来の出口が多様化しており、各学科の教育目標や育成人材像をより明確にし、人材像と就職先を結びつける必要性がある。

② 今後の改善方策

- ・関連施設実習を充実させ、業界理解を深め、活躍領域の幅を持たせられるよう職業意識を醸成する。
- ・業界への理解を深める内容をホームルーム、就職対策などで実施し就職先と人材像を結びつける。

③ 特記事項

・教育理念から人材育成をより体系化するべく三幸学園の教職員としてのビジョンを設定し、全教職員へ浸透している。業界ニーズを学ぶ為に、産学連携として、フィットネスクラブと提携を結び、業界の即戦力となれる人材育成の為にカリキュラム等を共同開発している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

カリキュラムにあるから実習に行くという意識ではなく、将来の為に意欲を持って参加する姿勢が必要と感じる。学校側が企業に対して実習の主旨や目的をしっかりと伝えたいうで依頼してほしい。その上で企業側も関連施設実習の理解を深め、「このような人材を求めている」「仕事とはこういうものだ」という点をしっかりと打ち出し、「これがこの業界の仕事なのか」と実習を通して学生に感じさせる必要がある。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・情報システムを使用することで業務の効率化に努めているが、個人業務に時間がとられ、生徒・教職員・取引先とのコミュニケーションに使える時間を増やせていない。

② 今後の改善方策

・グループウェアや共有サーバー等の導入による活発な業務効率化を図る。
・積極的に WEB 会議などを活用し、姉妹校との連携、情報の共有を行い、会議の効率化を図る。

③ 特記事項

・年に 3 回の全教職員の会議を行い、運営方針の浸透や情報共有を積極的に行っている。
・WEB 会議を通じて、各姉妹校とのタイムリーな情報共有や課題に対する施策なども行っている。
・昨年度頂いた「コミュニケーションに使える時間を増やす」為に事務職員を 1 名採用(9 月)。

③ 学校関係者評価委員会コメント

業務が多岐にわたるので、まず仕事の目的や本質の理解を深めたいうで、仕事の無駄がないか点検し、業務分担を工夫していく必要がある。そして、それが果たして生徒のためになっている必要なものなのかという業務の棚卸しをしていかないといけない。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・完成年度を迎える新しいカリキュラムをしっかりと運用し、主旨や目的を浸透させる必要がある。科目ごとの連携を深める「科目間連携」をしっかりと運用する。
- ・教育目標や育成人材像を設定していくにあたり、社会の動向や業界のニーズに基づき、更なる精度を高める必要がある。

② 今後の改善方策

- ・企業や業界団体との関係性を高めることで、業界の動向を正確に把握する。その為にも、イベントの参加や企業様との連携を深めていく働きかけを続けていく。
- ・収集した情報を多面的に評価及び精査し、教育課程の編成に活用できる仕組みを構築する。

③ 特記事項

- ・業界のニーズをより深く理解し、教育に活かしていくことを目的に、株式会社ルネサンスと産学連携協定を結び、教育課程の共同編成やシラバスの共同開発を行い、業界の即戦力となれる人材育成を積極的に実践している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

職員研修が実務に繋がっているかという点、まだ課題はある。受けて終わりにならないように取り組む必要がある。また、教科担当の教員向けの研修は年に2回程度なので、もっと手厚くする必要がある。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・資格試験の受験率及び資格取得率の向上。
- ・退学率低減。
- ・大手就職企業へ内定を取る為の様々な施策の実施。
- ・卒業生の社会的な活躍の情報収集と教育活動への反映。

② 今後の改善方策

- ・資格取得に向けた動機づけ及び対策を統一してクラス毎に実施し、模擬試験等の結果を共有。
- ・各クラス生徒状況報告を実施し、傾向や今後の対策に活用する。
- ・就職校内ガイダンス、就職決起大会、就職模擬面接等、質の高い就職指導プログラムの構築・提供。
- ・卒業生の活動状況把握と情報収集。

⑤ 特記事項

- ・Sanko Link(同窓会サイト)の設置による卒業生とのコミュニケーションを充実。

④ 学校関係者評価委員会コメント

授業がわからない時にタイムリーに質問や相談にいける環境があれば良いのではないかと感じる。社会に出たときに、「資格」を努力して取得した結果、ゴールへ向かって頑張る力、成功体験などは重要であり、資格取得というゴールに向けて地道に努力する事が出来るようになる。また、いかにその資格を保持している教科担当の教員と担任との連携が出来るかが大事と感じる。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	2
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2

① 課題

- ・卒業生 SNS として「SANKO リンク」を設置しているが、まだ認知を含めて不足している。
- ・中途退学者への支援体制が組織として確立できていない。

② 今後の改善方策

- ・SNS による卒業生への定期的な情報配信を実施。
- ・卒業後教育の充実をはかる。

③ 特記事項

- ・就職・進路に関する支援については、クラス担任と就職担当のダブルサポートシステムを実施し、決定まで導くような体制作りをしており、毎年、高い就職決定率を誇っている。
- ・経済支援制度の制定。
- ・担任より保護者への一斉連絡を学期始めに実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

Sanko リンクの認知度はまだ低いと感じる。30 代後半の卒業生はトレーナーとして重要なポジションで活躍している方が多いと思うので、そのような卒業生とのつながりを強めることが更なる学校の質を上げると感じる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・更に質の高い教育を目指し、教育環境・体制を整備する。
- ・生徒数増加に伴う実技施設の更なる整備。

② 今後の改善方策

- ・社会のニーズに対応した職業教育を行うべく教育ツールを企業と連携して開発、整備する。
- ・年1回(4月)避難訓練を実施する。
- ・

③ 特記事項

- ・1号館と2号館の全面リニューアルを実施。全教室にプロジェクターを設置し、IT機器等を使った授業を推進すると共に実技教室を増やし、より実践的な教育に対応できる環境を整備している。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- ・前回の課題を反映できていると思うので、特になし。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・入学後の学生状況や進路状況が、学生の母校等に情報を直接伝えられる機会が少ない。

② 今後の改善方策

・学校の広報担当者が、高校訪問を行い、学生の様子を直接伝える機会をつくる。

③ 特記事項

・関西・広島地区の広報をサポートする関西・広島広報室と情報を共有し、高校訪問にて学生の出身高校の先生方へ状況を共有している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度到新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・更なる法令遵守の推進・問題点改善に当たっての取り組み強化が不十分

② 今後の改善方策

・会議や掲示などを通して、全ての教職員に法令遵守に対する啓蒙を継続的に図ると共に、役職者にて随時、取り組みの進捗状況の把握に努める。

④ 特記事項

・平成 27 年度自己評価結果より公開を開始。

⑥ 学校関係者評価委員会コメント

・特に問題ない。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

・学校の教育施設を活用した活動の場を多く提供しているが、地域や一般の方に向けた講座が少ない。

② 今後の改善方策

・地域貢献につながる公開講座を積極的に実施していく。

③ 特記事項

・学校の実技実習施設は、地域の方の水害時の避難場所に指定いただいている。

・関係団体からボランティア活動の依頼は多い。その活動実績が、教育効果を高め、就職活動時に成果となって現れている。

・29 年度より空手教室を実施する。

③ 学校関係者評価委員会コメント

・特に問題ない。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年度、今年度といただいた貴重なご意見をもとに、今後の学校運営に活かしていきたい。